

■今月の特選句

2012年4月号

一山の木の芽は含み資産です

藤森 荘吉

最近はあまり聞かぬが、昔は「ひと雨いくら」と言ったものだ。含み資産という経済用語をうまく使って、木の成長を礼讃。

優柔な力士のような春の海

西をさむ

春の海の波が、優柔不断に寄せ返す様子が、何度も仕切り直しをする力士みたいだという見立ての句で、波の四股名は春の海なんてね。

薫風を主食としたり鯉幟

山本 賜

汗をかいて働く労働者は、グラスにも優しい目をそそぐ。一所懸命に冷やしてくれたんだね、グラスさん、こんなに汗かいて。おかげでとても旨いよ。

ものぐさ度測定したろ春炬燵

石川 節子

「勤勉や春の炬燵に決別の」なんていうただの人には難しい。「ものぐさ度測定用の春炬燵」ということ。「春炬燵遅刻の弁解考える」。

損をしたやうな閏のサラリーマン

前 九疑

今年は「閏年」でしたね。雇われる側は損ということは、「経営者は一日儲け閏年」ということでしょうか。

あーんして目薬を注す四月馬鹿

田村 米生

四月馬鹿に限らず、目薬をさすときは口を開けます。それを発見して可笑しい句になりました。もっとも、「目薬をささずにあーんしたら馬鹿」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- できちやつた種明かしされ冴え返る
・・・馬の骨でも結局赦す
小林英昭
- 世の空気読めずのめのめ寒戻る
・・・寒九郎にはひと苦勞した
金澤 健
- 風邪よりも万病のもと加齢なり
・・・加齢とつけりゃ誤診は皆無
川島智子
- 春の雪解けて無かったかのように
・・・あとくされなきあの娘にも似て
村上美和
- 右耳の耳鳴り止むや百千鳥
・・・騒音になる百千鳥とて
武智かずを
- それなりに学びし頭卒業す
・・・落第制度つくられるまで
久我正明
- 雪の壁声が頼りの隣り組
・・・俳人ならば一句詠み合ふ
黒田忠一
- 鶏は庭の鳥なり草青む
・・・庭には丹羽の鶏のみて
原田 曄
- MRIに脳を覗かれ春寒し
・・・医師も患者のデータを覗く
麻生やよひ
- みちのくの雛もてあそぶ津波かな
・・・波に黙禱三月三日
渡辺さだを

活断層知らぬが仏草芽出づ

・・・地震の国に生ひたる定め

伊藤浩睦

入学に入社結婚親のコネ

・・・コネの二文字のスネにも似たる

松尾軍治

噴水の穂や曇天の底つつく

・・・くすぐつてゐるやうにも見えて

ひがし愛

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|--|----------------------|
| 【佳作】 | 職退いて妻に疎まる四月馬鹿
まゆつばの耳たぶのあり四月馬鹿
四月馬鹿三食昼寝の夫がいる | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 黄沙降る仕舞ひ忘れの洗ひ物
勝負ごと致さぬままに老いの春
春禽の里庭統べて鴉を排す | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| | 根菜をコトコト炊いて春浅し
浪速っ娘掌に受け嬉し春の雪 | 秋月裕子
秋月裕子 |
| 【佳作】 | 啓蟄の議論を挑む維新塾 | 秋月裕子 |
| 【佳作】 | 頑なに開こうとせず梅蕾
夜も昼も呼ばれ続けて雪女 | 麻生やよひ
麻生やよひ |
| 【佳作】 | 万愚節サイドブレーキ効きませぬ
まっ白のままのノートや四月尽
四月馬鹿降りる透明エレベーター | 足立淑子
足立淑子
足立淑子 |
| 【佳作】 | 青き踏む万歩計より線量計
音ほどは上がってくれぬ紙風船
白い脚春の小川へじやぶじやぶと | 有吉堅二
有吉堅二
有吉堅二 |
| | 徘徊が徘徊探す村の春
リハビリや白髪並べて花を愛で | 栗倉健二
栗倉健二 |
| 【佳作】 | 椅子回しホウレンソウから孫逃げる | 栗倉健二 |
| | 春浅し就活婚活料理活 | 安藤淑子 |
| 【佳作】 | 雛の字を書きそこねたり皺と書く
爺と婆会話すれ違ふぬる炬燵 | 安藤淑子
安藤淑子 |
| | 雛納め達磨の顔も拭いてやる
涅槃図のみんな出て来い酒吞ます | 飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 | 裸婦像の胎が膨らみ山笑ふ | 飯塚ひろし |
| | 日溜りやあわてん坊の雪柳
右を向き左を向いて紅椿 | 井口寿々子
井口寿々子 |
| 【佳作】 | 涙腺の少しゆるんで春の雨 | 井口寿々子 |
| | パンジーの面はピエロの愁ひかな | 井口夏子 |

- 【佳作】 日向ぼこ残りの浮世楽しみり
風邪寝して閻魔大王迫りくる
井口夏子
井口夏子
- 【佳作】 はじけとぶ夢とは知りつ宝くじ
豆なんぞに追われてなるかと今年の鬼
池田亮二
池田亮二
- 【佳作】 野遊びや絶叫マシンも付け加ふ
石川節子
- 【佳作】 手を打てば駆け出しさうな土筆かな
桜餅喰ふ母の顔小さくて
病むことは妻を知ること春障子
板倉肱泉
板倉肱泉
板倉肱泉
- 補聴器の確かと聞きし亀の声
【佳作】 幼児の裸といへど更衣
伊地知寛
伊地知寛
- 【佳作】 看護師も医者も患者も花粉症
伊地知寛
- 【佳作】 分数の出来ぬ中二の春遅し
恵方巻一気に食べて死にかけて
伊藤浩睦
伊藤浩睦
- お手打ちとなって無残に西瓜割り
チューリップ色はいろいろ同じ花
稲沢進一
稲沢進一
- 【佳作】 砂抜きと思ひて買ひし浅蜷かな
稲沢進一
- 【佳作】 どか雪に足跡残し気の引ける
婆一ぼとは呼ばれたくなし雛は買う
木目込みの小さき雛ある交番所
井野ひろみ
井野ひろみ
井野ひろみ
- 【佳作】 春落葉かさなり合ひて吹かれゐる
春昼の猫にうつされ欠伸かな
春風邪の少女の声の艶めける
今城夏枝
今城夏枝
今城夏枝
- 【佳作】 空振りに終る今年の猫の夫
剥き牡蠣に似た形状でそれも小
落第子群れて繰り出す夜の街
宇井偉郎
宇井偉郎
宇井偉郎
- 湧き水の溝より春の匂ひ立つ
予後の身の蘇生祝して梅咲きぬ
【佳作】 アナウンスの声も震へて春の雪
宇佐美徹郎
宇佐美徹郎
宇佐美徹郎
- あてつけに道灌殿へ濃山吹
猫の恋髭の両方睨み合ひ
【佳作】 海底に蛸のすり足春の月
氏家頼一
氏家頼一
氏家頼一

- 【佳作】 しばらくは籬のはづれし大朝寝
ふらここやうっかり疾ひ？忘れみて
臍深きパンを昼餉に万愚節
越前春生
越前春生
越前春生
- 【佳作】 啓蟄や目覚めの早き腹の虫
紅梅の未だ含むに安堵する
たがために先鋒務む白椿
奥脇弘久
奥脇弘久
奥脇弘久
- 【佳作】 熱爛の五勺にほると宵の口
歯を抜きしあとのブリツジ春寒し
亀鳴くや耳といふ名の聴音器
笠 政人
笠 政人
笠 政人
- 【佳作】 世界中の注目を浴び青い蘭
雪解やフルヤノモリ（古屋の漏り）の怖いこと
秘蔵写真を覗くや窓の大椿
加藤澄子
加藤澄子
加藤澄子
- 【佳作】 着膨れの玻璃戸の影は己れなり
退きし後の余寒のエレベーター昇る
寐てふ覚えやすき字桜餅
加藤 賢
加藤 賢
加藤 賢
- 【佳作】 しづしづとこはごはと御神渡りかな
陽の重み加へ蒲団の取り込まる
金澤 健
金澤 健
- 【佳作】 寒風に平手打ちされ惨敗す
極楽のような空間毛糸編む
川島智子
川島智子
- 【佳作】 薄氷の密かに夜に結ばれる
啓蟄や尻を光らす内視鏡
久我正明
久我正明
- 【佳作】 キャンプ地に巨人ホークスチューリップ
料峭や手袋に付く滑り止め
亀鳴くと老木穿つ穴にかな
工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子
- 【佳作】 ロボットの片足出来て葱坊主
明日あるを信じて食らふ桜餅
女傑とてなみだ鼻水花粉症
倉方 稔
倉方 稔
倉方 稔
- 【佳作】 雪道を遠廻りして惜しみけり
納豆にタンゴ浸み込む朝餉かな
抜けた歯を屋根に投げたる春傘寿
黒田忠一
小杉 隆
小杉 隆

- 沢庵漬けぼりりぼりりと観る武蔵 小杉 隆
- 【佳作】 啓蟄や貞操帯にスペアキー
四月馬鹿すこし見栄はるアンケート 小林英昭
小林英昭
- 【佳作】 軒つららラインダンスを踊りたい
効率や合理化よりもおいしさを
立春に画いてる絵に雪積もる 齋藤八兵衛
齋藤八兵衛
齋藤八兵衛
- ジキルにもハイドにも変身サングラス
満員の座席気になる敬老日 酒井鹿洋
酒井鹿洋
- 【佳作】 我が子のみ追ひ廻し果つ運動会 酒井鹿洋
- 春愁やこども帰りの一物よ
しげしげと子安貝みる男の児の目 佐藤古城
佐藤古城
- 【佳作】 隣席のうまい娘肩に受けて春 佐藤古城
- 【佳作】 雛めぐり雛の向うに母の顔
雛めぐりランチのあとでちょいめぐり
人参の角蜜柑の眼節句之頭は 佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子
- 【佳作】 結び目を瀬音がほどく糸柳
梅一輪匂いほのかの自己主張
眼をさませ春一番の扉をたたく 澤田蔦恵
澤田蔦恵
澤田蔦恵
- 俗人の姿勢を正す軒氷柱
豆まきて弾ずみで当たった夫の顔 柴田真一
柴田真一
- 【佳作】 受験ぐせ三校受かって又浪人 柴田真一
- 【佳作】 左遷にもつき来しコート捨てられず
異常なき五年検診山笑ふ
露天湯に一人泳ぐや初蛙 清水呑舟
清水呑舟
清水呑舟
- 春眠や起きては猫を踏みつぶす
亀鳴くや居るはずもなき妻に逢ふ 下嶋四万歩
下嶋四万歩
- 【佳作】 探梅や歩き疲れて極楽寺 下嶋四万歩
- みしみしと荒ら屋泣かす赤城下風かな
義理チョコの期待ちらりや二三幕 壽命秀次
壽命秀次
- 【佳作】 猫の恋おはり家族の輪に戻る 壽命秀次
- 大吉のみくじに賭けし受験の子 白井道義

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 皺一つ無くて代々古雛
税申告するほど実入り無く老いし | 白井道義
白井道義 |
| 【佳作】 | バラバラに来て冬すずめと言う仕草
わずかずつ伸びて土筆んぼ
土筆によきっと AKB はどこ | 鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝 |
| 【佳作】 | 部屋の中ストーブつけて書きあげる
春の夜灯りキラキラサラリーマン
スナックでは小鉢に煮ものひなまつり | 鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也 |
| 【佳作】 | さしなべや三寒四温味おうて
トンネルの落成式や山笑う
箱の中十月十日や雛納め | 高田敏男
高田敏男
高田敏男 |
| 【佳作】 | 厚化粧茶髪袴で卒業子
押し入れに封印されてお雛さま
人生の序盤を締める大試験 | 高橋マキコ
高橋マキコ
高橋マキコ |
| 【佳作】 | 人生に台本はなし春の闇
天満宮絵馬で膨らみ二月尽
窓開けりやお隣さんに鬼は外 | 高橋 都
高橋 都
高橋 都 |
| 【佳作】 | 足元のほうらここにも春がゐる
春の雪溶けてすつびん琵琶湖畔
言ふなれば日陰者なり残る雪 | 高橋素子
高橋素子
高橋素子 |
| 【佳作】 | 縄飛びのリズムに合はぬ妹よ
竹林は小山に帰り風光る | 武智かずを
武智かずを |
| 【佳作】 | 土雛やそろひ微笑む納屋のすみ
うしみつの雛の宴会賑はひぬ
春きざし天岩屋の光から | 田中章子
田中章子
田中章子 |
| 【佳作】 | 冴返る再入院の負くまじく
春泥や釜ヶ崎から抜けられぬ
春めくのひやとひ仕事増えるかな | 田中 勇
田中 勇
田中 勇 |
| 【佳作】 | 「転ぶなよ」声掛け雪に転びけり
生きるとは苦しむことか七変化
変声期母より貰ふチョコレート | 田中早苗
田中早苗
田中早苗 |

- | | | |
|------|------------------|-------|
| | 石鯰玉ときにムンクの顔となり | 種谷良二 |
| | 酒蒸しで浅蜷次々笑い出し | 種谷良二 |
| 【佳作】 | 雛の日の娘家には寄り付かず | 種谷良二 |
| | 隣席にあくびをうつす春の昼 | 田村米生 |
| 【佳作】 | 我輩も猫になりたき春の夜 | 田村米生 |
| | 飛び梅の荒行堂にふふみけり | 飛田正勝 |
| 【佳作】 | 風邪の子をからかひ風邪を貰ひけり | 飛田正勝 |
| | 永き日や大川の橋みな渡る | 飛田正勝 |
| | 嬉しくも嬉しくもなや喜寿の春 | 永島董玉 |
| 【佳作】 | エンジンの音に跨り耕作す | 永島董玉 |
| | 蒸躰むしりむしりつ手酌にて | 永島董玉 |
| | 啓蟄やおじゃま虫まで飛び出して | 西をさむ |
| 【佳作】 | 詮無くてベッドの上で春死なん | 西をさむ |
| 【佳作】 | 啓蟄や虫かも知れぬ蛇蛙 | 原田 曄 |
| | 春嵐桶屋もうかる話あり | 原田 曄 |
| | 万愚節骨壺の犬ワンと鳴く | ひがし愛 |
| 【佳作】 | ループ橋実は巨大な蝸牛 | ひがし愛 |
| | 俳人になれば聴こへる亀鳴くが | 彦阪義久 |
| | 啓蟄や蠢く足せど虫四匹 | 彦阪義久 |
| 【佳作】 | 馬鹿に効く薬アリマス万愚節 | 彦阪義久 |
| 【佳作】 | 親離れ子離れ挿木一人立ち | 久松久子 |
| | 雛の間丑三つどきを過ぎりけり | 久松久子 |
| | 口だけは達者な集団囃りぬ | 久松久子 |
| | なけなしの知力奪はれ春の風邪 | 日根野聖子 |
| 【佳作】 | 水温む鳥も魚もあくびして | 日根野聖子 |
| | 両肩に百花繚乱春ショール | 日根野聖子 |
| 【佳作】 | 客寄せの小町の墓や草霞む | 広瀬雅幸 |
| | 豪勢な雛を見にゆく雛祭 | 広瀬雅幸 |
| | 墓穴を出て老けたねと人に言う | 広瀬雅幸 |
| 【佳作】 | 大阪弁に木つ端微塵春愁ひ | 藤岡蒼樹 |
| | 春眠や河童の皿の嘘まこと | 藤岡蒼樹 |

- 落味噌や母の平手を齢いま 藤岡蒼樹
- 【佳作】 予定など何にも決めぬ二月かな
エレガント遺跡に集ふ猫の恋 藤森荘吉
藤森荘吉
- 【佳作】 きしみをり厳冬のマッサージ機は
眠られず寝返り後の肩冷えて
急ぎ逝く友を見送り二月尽 藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子
- リベットの音忙しなき年度末
【佳作】 そこまでと言はれ渋々卒業す 前 九疑
前 九疑
- 【佳作】 汐干狩貝より尻の多さかな
八木健に花の名所をたずねけり 松尾軍治
松尾軍治
- 【佳作】 年金の消える憂き世の春寒し
春一番名人機械に飛ばさるる
触れ太鼓戻り浪速の春めでた 丸山紘一
丸山紘一
丸山紘一
- 老二人パッチワークの春障子
五分のたましひ引き連れ地虫出づ
【佳作】 ソーソーの尻もちつきてあたたかし 三木蒼生
三木蒼生
三木蒼生
- 【佳作】 土塊を踏みつけて聞き春の音
籤外れティッシュばかりの春休み
今年また空き家争奪小鳥の巢 三塚不二
三塚不二
三塚不二
- 凄じき母の痴呆や春遅し
残雪に下校の街の子群がりぬ
【佳作】 しばらくは何処かしらに花の屑 三橋百笑
三橋百笑
三橋百笑
- 陽炎やカスターネットの石畳
【佳作】 涅槃絵図吊る現世の五寸釘
初雪が根雪となりぬおらが里 宮森 輝
宮森 輝
宮森 輝
- 【佳作】 はずれ無きくじびきを引く梅日和
真青なる空の底より春の雪 村上美和
村上美和
- 【佳作】 蛇口よりざんざとかぶる春の水
真夜中に私がふたり冴え返る
をさなごのゴム編み遊び花筵 百千草
百千草
百千草

- | | | |
|------|------------------------------------|----------------|
| | 雪だるま顔は小顔の方が良い | 森岡香代子 |
| 【佳作】 | 雪だるま急ピッチのダイエット
菜の花や作り笑顔の少女かな | 森岡香代子
森岡香代子 |
| | 孫二歳最後の初恋ひな祭り | 森 要 |
| 【佳作】 | 孫や子に白々チョコチョコ義理返す
春の雪黄色い模様にふぐり振る | 森 要
森 要 |
| | 俳人が廃人となる置炬燵 | 守屋八郎 |
| 【佳作】 | 成人の日より病み付き酒煙草
大雪に人手の足りぬ雪女 | 守屋八郎
守屋八郎 |
| | 梅の句を詠まむと樹下に咲くを待つ | 八木 健 |
| 【佳作】 | マイクテストは晴天なりと春の雨
春疾風に追ひ越されたる春一番 | 八木 健
八木 健 |
| | くめひろしラジオなんです梅しろし | 八洲忙閑 |
| 【佳作】 | 見返りて一句詠みけり花美人
梅見ごろそゞろ地虫の目覚めごろ | 八洲忙閑
八洲忙閑 |
| | 節穴を覗ひて見たく猫の恋 | 柳 紅生 |
| 【佳作】 | 日向ぼこ日々金太郎飴の顔
白魚の眼ん玉人を食ってをる | 柳 紅生
柳 紅生 |
| | 井戸端の笑ひにや勝てぬ冬將軍 | 山下正純 |
| 【佳作】 | 連鎖して家中風邪の子沢山
炬燵寝の代償喉に蛇が鳴り | 山下正純
山下正純 |
| | 人間は除けて通れと寒鴉 | 山本けい子 |
| 【佳作】 | 姿良きりんごを選べと吾が夫は
風花の白追ひかける園児かな | 山本けい子
山本けい子 |
| | 一年にひとつとしとおひなさま | 山本 賜 |
| 【佳作】 | バス停にとても元気な寒椿 | 山本 賜 |
| | 古池やまだ飛込めず蛙の子 | 横山喜三郎 |
| 【佳作】 | バードデー入るをためらふ焼鳥屋
こぼれても拾ふ神あり卒業す | 横山喜三郎
横山喜三郎 |
| | 野梅咲き蒼天ここに極まれり | 渡辺さだを |
| 【佳作】 | 沈丁の芽吹き病も癒えしかな | 渡辺さだを |